

自民党総裁選演説会にともなう症候群 サーベイランスシステムの強化

すぎ 杉 浦 弘 明¹⁾ こ 児 玉 和 夫²⁾
ひら 平 賀 瑞 雄³⁾ おお 大 日 康 史⁴⁾

キーワード：症候群サーベイランス，電子カルテ，学校欠席者サーベイランス

要 旨

島根県出雲市で常時運用されている外来症候群サーベイランスと学校欠席者サーベイランスを用いて，急遽2008年9月17日に島根県出雲市での開催が決定された自由民主党総裁選挙の演説会でのバイオテロ対策として監視強化を2週間行った。サーベイランスの結果は健康危機情報として毎朝，島根県，出雲医師会，出雲保健所，国立感染症研究所他関係者によって共有された。サーベイランス期間中，アラート情報を毎日8時までには配信できたことは，今後の重要なイベント時における健康危機情報の迅速な収集を行うに際してのモデルが提示されたという意味で大きな成果であると考えられる。今後は全国で同様の完全自動化されたシステムが常時稼働することが次の課題であると考えられた。

はじめに

1999年から感染症サーベイランスは，法律に基づいて確定診断と病原体調査によって発生動向調査として実施されている。この結果は，国としては国立感染症研究所感染症情報センターが週報として公表し，各都道府県としても，感染症情報センターが週報として Web 上にも一般に公開されている。これらの情報は通常の季節的変動のある感染症患者を多く診察する内科医及び小児科医に

とって非常に有用である。

しかしながら，インフルエンザ，水痘等の5類感染症は，報告が週に一度ということから，患者が受診してから集計情報の還元まで最短でもおよそ10日がかかる。また，病名が診断されない場合にはこのサーベイランスでは流行を補足できない問題点があり，新型インフルエンザに代表される早期対応が必要な新興・再興感染症や2001年炭疽菌事件¹⁾等のようなバイオテロリズムといった健康危機に対応しきれない。そこで，病名や病原体同定に固執せずに危険な感染症の発生の兆候を見つめることを主眼におく「症候群サーベイランス」²⁾が米国を中心にはじまっている。1995年から

Hiroaki SUGIURA et al.

1) すぎうら医院 2) 児玉医院 3) 島根県出雲保健所

4) 国立感染症研究所感染症情報センター

連絡先：〒693-0002 出雲市今市町北本町2-8-3